

海蔵あくら



四日市市立海蔵小学校
校長室 だより
令和 4 年 4 月 8 日
第1号
文責 校長 柳川 洋史

新学期が始まりました

今春の異動で、海蔵小学校に着任しました校長の柳川 洋史と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

海蔵小学校には、28年前(7年間)勤めさせていただきました。今は南校舎大改修が行われ、北校舎も部分改修され、とてもきれいな校舎になり驚いています。

4月2日、海蔵セフティネット協議会の方々による新入児童向け「初登下校の前に親子で通学路を歩いてみよう!」という取組が開催されました。PTA 常任委員の皆様も参加してくださり、大勢の1年生が入学式前に安全に登下校するための学習と下校を体験することができました。本当に地域に支えられている学校であることを実感しました。

参加された方の中に、以前担任させていただいた児童の保護者の方もいらっしゃいました。声をかけてくれたので、当時の記憶がよみがえり、とてもうれしくなりました。新鮮な気持ちで、海蔵小学校のために頑張っていこうという気持ちが強くなりました。これから、どうぞよろしくお願いいたします。

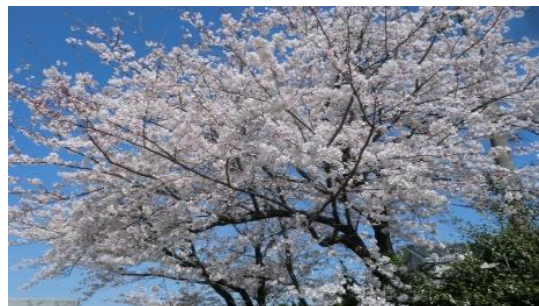


教科書配布…先人の思い

毎年当たり前のように配布される教科書。

今日は、教科書の名前記入欄の付近をお子様と一緒に見ていただけますでしょうか。

こんな言葉が書かれています。



この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、国民の税金によって、無償で支給されています。大切に使いましょう。

また、1年生の教科書を入れてある袋には次のように書かれています。

「保護者の皆様へ お子様の御入学おめでとうございます。

この教科書は、義務教育の児童・生徒に対し、国が無償で配布しているものです。

この教科書の無償給与制度は、憲法に掲げる義務教育無償の精神をより広く実現するものとして、時代を担う子どもたちに対し、我が国の繁栄と福祉に貢献して欲しいという国民全体の願いを込めて、その負担によって実施されております。

1年生として初めて教科書を手にする機会に、この制度に込められた意義と願いをお子様にお伝えになり、教科書を大切に使うようご指導いただければ幸いです。

文部科学省」

今から60年ほど前までは、それぞれの家庭で教科書を買っていました。

高知県のある地区の母親が中心になって、教科書無償化運動が始まったのですが、当時の様子について、次のような記録が残っています。

「その頃は、教科書は、毎年、新学期を迎える前に各家庭で揃えることになっていました。3月になると、保護者たちは、古い教科書をゆずってもらったり、古くて使えないものや、ないものだけを買そろえたりして、苦労していました。新しい教科書を全部揃えると小学校で 700 円、中学校で 1,200 円ほどかかりました。一日働いて 300 円ほどの収入しかなかったのですから、子どもの数が今に比べて多かったその当時は、教科書をそろえてやるだけでも大変な出費でした。」

今の最低賃金が1日 8000 円ほどになっていますから、現在のお金に換算すると、小学生は約 18,700 円、中学生は約 32,000 円となります。毎年、3月になると一人当たりこれだけの教科書代が必要となっていたのです。

社会の状況によって厳しい生活を強いられていた家庭には、教科書を買うことができない状況がありました。「全ての子どもたちが平等に教育を受け、安心して学ぶことができるようにしたい」という親の願いと行動がきっかけとなって、思いを一つとする人々のつながりは、全国的な運動となりました。何年もの取り組みで、1962 年に法律が成立し、翌年から段階的に教科書が無償で配られるようになりました。



子どもたちが当たり前のように毎年手にしている教科書には、このような歴史や行動があったのです。現代でも、戦争により教科書どころか学校も住む家もなくなり、命さえ脅かされている状況が報道されています。

これからの未来を、平和な社会をつくっていく全ての子どもたちへの期待と健やかに成長してほしいという願いが込められた教科書です。学び、考え、行動する力を育むことで、生活を高めていくことにつながります。こうした思いを、新しく教科書を手にした時や、学んでいる時、使い終わった時に、少しでも思い出してくれたらと思います。